

日本人口学会第72回大会  
(埼玉県立大学・Zoom開催)  
2020年11月15日(日)  
自由論題C-2「家族と性」

本研究は、厚生労働行政推進調査事業費補助金(政策科学総合研究事業(政策科学推進研究事業))「長期的人口減少と大国際人口移動時代における将来人口・世帯推計の方法論的発展と応用に関する研究」(課題番号:20AA2007, 研究代表者:小池司朗)による助成を受けた。

## 日本における無子志向の 未婚男性に関する分析

守泉 理恵  
(国立社会保障・  
人口問題研究所)

1

## 研究の背景

- 1960年代生まれ以降、女性の無子割合が急速に高まっている  
※40歳代半ば以降の時点における女性の無子割合  
1900-05年生まれ 10.4% (国勢調査データ)  
1942-47年生まれ 8.9% (出生動向基本調査データ)  
1955年生まれ 11.9% (Human Fertility Database)  
1960年生まれ 16.6% (HFD)  
1965年生まれ 22.1% (HFD)  
1970年生まれ 26.9% (HFD)  
1974年生まれ 28.1% (HFD)
- 無子の多くは未婚由来であり、女性より未婚率の高い男性は、無子人口割合も女性より高いとみられる。
- 無子に関する研究は日本ではまだ少なく、さらに「男性の無子」を扱った研究はほとんどない。

# 男性の無子に関する先行研究

- 男性は、一般的に女性より未婚率が高く、おしなべて女性より無子割合は高い (Miettinen et al. 2015)
- 無子男性の特徴として、離婚経験がある、低学歴、低賃金の職業、健康状態が悪いといった属性が多くみられるが、国によって状況は異なる (Tanturri et al. 2015; Kreyenfeld and Konietzka 2017)
- 女性と比較して、婚外／前婚出生について履歴を過少報告する傾向があるなど、男性の出生歴把握は問題が多い (Rendall et al. 1999)
- 自発的無子女性の特徴的属性は、平等なパートナーシップ志向、世俗化、高学歴または特定の専攻（教育・保健）、都市居住、専門職、離死別経験、晩婚・未婚などが見出されているが、男性ではこれらは有意であったり、なかったり、方向が異なったりすることがある。
- 日本の男性無子の研究：菅（2008）は40歳時点の既婚男性の無子の決定要因を分析→初婚年齢と初婚解消が無子確率を高める

3

# 研究の目的

- 人口動態統計など公的な調査で出生データが取れる女性と異なり、男性の出生子ども数は学術的な標本調査をもとに推計するしかないことが多い。
- 本研究では、「出生動向基本調査」のデータを用いて、日本における男性の無子割合の推計と無子の未婚男性の特性を探る分析を行う。

※使用した「出生動向基本調査」の個票データは、国立社会保障・人口問題研究所調査研究プロジェクト「出生動向基本調査プロジェクト」のもとで、統計法第32条に基づく二次利用申請により使用の承認を得たものである。

# 研究課題とデータ

1. 日本における男性の無子割合について、国勢調査、出生動向基本調査（第10・14・15回）のデータを用いて推計する
2. 出生意欲データを用いて、無子の男性独身者の中で「無子志向」の男性を識別する。
3. 無子の未婚男性に注目し、特徴的な属性があるかどうか検討する

※本研究では、調査時点までの出生子ども数がゼロの場合を無子とする。

※第10、14、15回データを用いるのは、独身・有配偶両方の調査時点までの生涯出生子ども数が把握できるため。

5

# 男性の無子割合の推計方法

- 国勢調査の年齢5歳階級（20～49歳）・配偶関係別の男性人口に、出生動向基本調査（夫婦調査・独身者調査）で集計した年齢別子ども有無割合を掛けて、配偶関係別の子ども有無別人口を求め、男性の無子人口割合を推計
- 今回の推計方法の限界
  1. 再婚男性が前婚で子供を持っていてもデータに出てこない（調査では、夫の子ども数は「現在の結婚」のデータしかない）
  2. 妻の年齢が50歳未満の夫しかデータがない（調査対象者が「妻の年齢50歳未満の夫婦」であるため）



このため、有配偶男性の無子割合は実際より高めに出る可能性

# 20-49歳男性の無子割合の推計結果

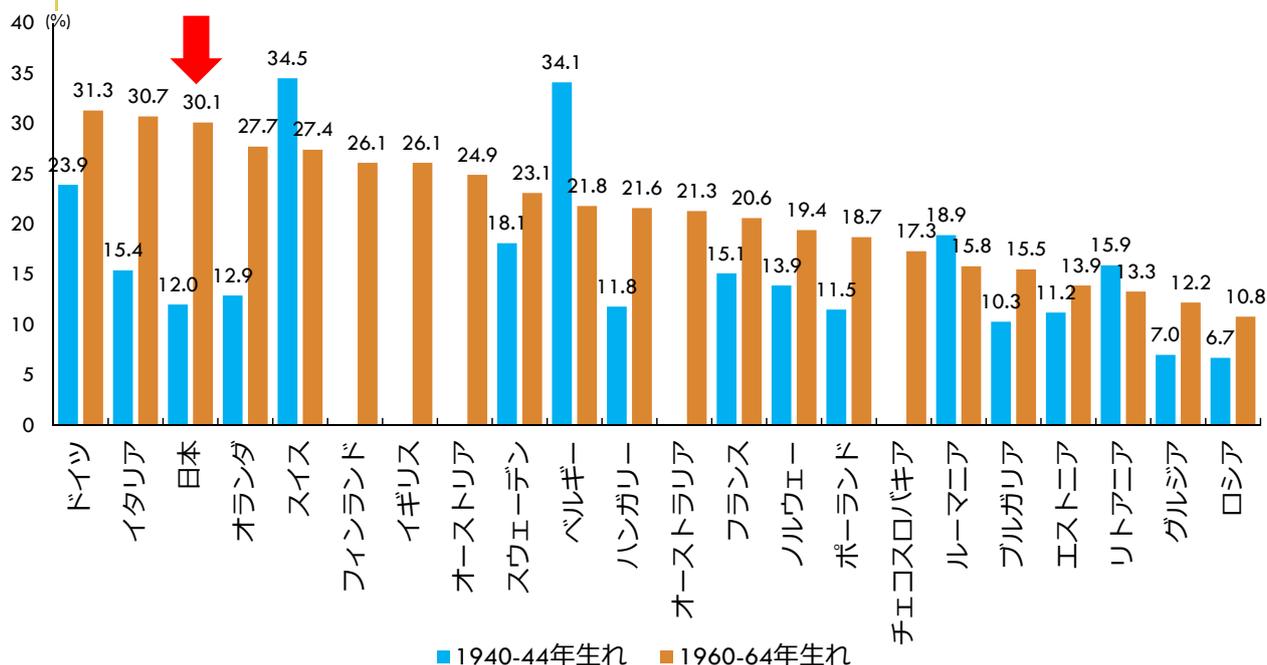
【年次(調査回)】 年齢	総数 (男性人口数)	無子人口割合				有子人口割合				不詳
		総数	未婚	有配偶	離死別	総数	未婚	有配偶	離死別	
【1990年(第10回*)】										
20～24歳	100.0 (3,266,238)	94.1	92.2	1.9	0.0	3.2	0.0	3.1	0.1	2.8
25～29歳	100.0 (3,691,722)	77.7	64.4	12.9	0.4	19.9	0.0	19.7	0.2	2.4
30～34歳	100.0 (4,221,012)	44.7	32.6	11.6	0.5	52.0	0.0	51.2	0.8	3.4
35～39歳	100.0 (4,950,123)	26.8	19.0	7.0	0.8	68.6	0.0	67.2	1.3	4.7
40～44歳	100.0 (4,400,375)	17.8	11.7	5.4	0.7	76.7	0.0	74.1	2.5	5.5
45～49歳	100.0 (4,027,969)	12.0	6.7	4.7	0.6	80.8	0.0	77.6	3.2	7.2
合計	100.0 (24,557,440)	44.3	36.6	7.2	0.5	51.3	0.0	49.9	1.4	4.4
【2010年(第14回)】										
20～24歳	100.0 (3,039,372)	92.6	91.3	1.3	0.0	3.3	0.1	2.9	0.2	4.1
25～29歳	100.0 (3,255,716)	77.3	69.0	8.1	0.2	17.2	0.2	16.2	0.8	5.5
30～34歳	100.0 (3,684,747)	57.8	45.9	11.0	0.9	37.0	0.1	35.7	1.2	5.2
35～39歳	100.0 (4,204,202)	44.4	34.8	8.8	0.9	50.1	0.0	47.6	2.5	5.4
40～44歳	100.0 (4,914,019)	36.6	27.9	7.2	1.5	57.4	0.1	54.0	3.3	6.0
45～49歳	100.0 (4,354,878)	30.1	21.9	6.7	1.4	64.4	0.1	59.6	4.7	5.5
合計	100.0 (23,459,953)	54.1	46.0	7.2	0.9	40.5	0.1	38.2	2.2	5.4
【2015年(第15回)】										
20～24歳	100.0 (3,039,372)	91.3	90.7	0.7	0.0	1.1	0.0	1.1	0.0	7.6
25～29歳	100.0 (3,255,716)	74.9	68.3	6.5	0.1	15.2	0.0	14.4	0.7	9.9
30～34歳	100.0 (3,684,747)	53.8	44.6	8.9	0.3	36.9	0.2	35.2	1.6	9.3
35～39歳	100.0 (4,204,202)	41.0	33.6	6.5	1.0	48.8	0.1	46.6	2.1	10.2
40～44歳	100.0 (4,914,019)	37.9	28.9	7.9	1.1	52.1	0.1	48.8	3.3	9.9
45～49歳	100.0 (4,354,878)	33.8	25.0	7.1	1.7	56.2	0.1	52.0	4.1	10.1
合計	100.0 (23,459,953)	52.2	44.9	6.4	0.8	38.1	0.1	35.8	2.2	9.7

注) 不詳には、配偶関係不詳、有配偶のうち初再婚不詳、子どもの有無不詳が含まれる。

\* 1990年国勢調査の人口データに対し、初再婚割合や子どもの有無別割合は1992年実施の第10回調査データを用いている。

7

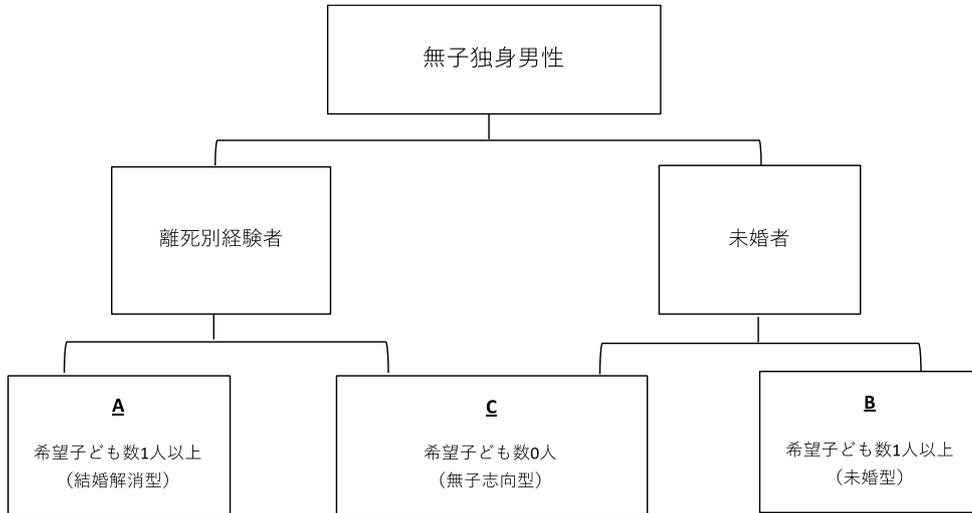
## 男性無子割合の国際比較



資料：日本以外は、Miettinen et al. (2015) Appendix Tables 3 b, 3cより抜粋。日本は報告者による推計値。

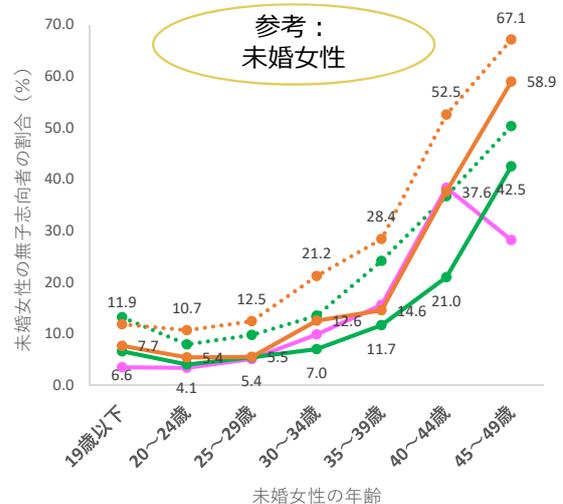
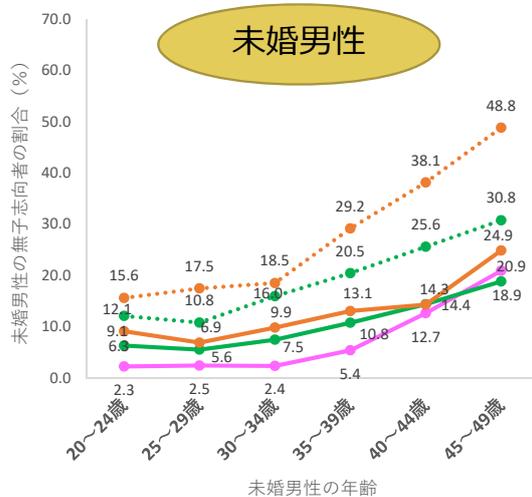
# 独身無子男性のタイプ分類

- 無子の独身者を出生意欲の有無で分類
  - 希望子ども数0人 = 無子志向者
  - 希望子ども数1人以上 = 有子志向者



9

# 調査回別にみた未婚男性の無子志向者割合



- 未婚男性 (総数) 第14回(2010)
- 未婚男性 (総数) 第15回(2015)
- 未婚男性 (結婚意思あり) 第10回(1992)
- 未婚男性 (結婚意思あり) 第14回(2010)
- 未婚男性 (結婚意思あり) 第15回(2015)

- 未婚女性 (総数) 第14回(2010)
- 未婚女性 (総数) 第15回(2015)
- 未婚女性 (結婚意思あり) 第10回(1992)
- 未婚女性 (結婚意思あり) 第14回(2010)
- 未婚女性 (結婚意思あり) 第15回(2015)

# 無子志向の未婚男性の特性に関する分析

- 使用データ：第15回出生動向基本調査（独身者調査）
- 分析対象：男性、35歳未満、既卒
- 無子志向=1、有子志向=0の2値変数を従属変数としたロジスティック回帰分析
- 独立変数に、社会経済要因（学歴、年収）、パートナーシップ要因（離死別経験、交際状況）、生育環境（乳幼児ふれあい経験、15歳時都市圏居住）、価値観（家族志向）を含めた。

11

## 記述統計

説明変数	無子志向	有子志向	説明変数	無子志向	有子志向
学歴			異性との交際状況		
中学校	6.5%	4.3%	交際している異性なし	88.1	65.3
高校	40.9	33.7	友人として交際の異性あり	3.4	6.7
専修・専門学校（高卒後）	18.6	15.8	恋人・婚約者あり	8.6	28.0
短大・高専	4.0	2.7	乳幼児とのふれあい経験		
大学・大学院	30.0	43.5	なし	69.9	57.2
昨年の年収			あり	30.1	42.8
なし	26.6	11.7	きょうだい		
100万円未満	10.6	7.7	きょうだいあり	92.8	92.6
100万円台	15.3	10.7	きょうだいなし（一人っ子）	7.2	7.4
200万円台	20.9	24.6	15歳時居住都道府県		
300万円台	16.3	25.1	都市圏以外	52.1	55.0
400万円以上	10.3	20.1	都市圏	47.9	45.0
離死別経験			家族志向価値観*		
なし	97.6	98.3	賛成	61.1	76.1
あり	2.4	1.7	反対	38.9	23.9

\*「結婚した男性にとって、家族と過ごす時間は仕事の成功よりも重要だ」という項目に賛成した場合に非伝統的価値観=家族志向を持っているとした。

# 分析結果

説明変数	係数	標準誤差	オッズ比
学歴（基準：高校）			
中学校	0.264	0.317	1.302
専修・専門学校（高卒後）	-0.094	0.205	0.911
短大・高専	0.370	0.396	1.448
大学・大学院	-0.387 *	0.171	0.679
昨年の年収（基準：300万円台）			
なし	1.028 **	0.225	2.796
100万円未満	0.643 *	0.269	1.903
100万円台	0.726 **	0.248	2.067
200万円台	0.155	0.223	1.167
400万円以上	-0.146	0.262	0.864
離死別経験（基準：なし）	0.710	0.469	2.035
異性との交際状況（基準：恋人・婚約者あり）			
交際している異性はいない	1.337 **	0.154	1.727
友人として交際している異性がある	0.741 +	0.413	2.098
乳幼児とのふれあい経験（基準：ある）	0.546 **	0.154	1.727
きょうだい（基準：あり）	-0.349	0.277	0.705
15歳時居住都道府県（基準：都市圏以外）	0.247 +	0.145	1.281
家族志向価値観（基準：反対）	-0.589 **	0.150	0.555
定数	-2.940 **	0.332	0.053
カイ二乗	151.7		
Nagelkerke決定係数	0.153		
標本数	1,575		

\*\*p<.01, \*p<.05, +p<.1

13

## まとめと考察

- 男性の無子人口割合は、（高めに外出している可能性はあるものの）女性より高く、1960年代生まれで3割にのぼる。
- 3割という男性の無子割合は、国際的にみても高い。
- 未婚男性の無子志向者割合は、35歳未満層では1割弱。40年代生まれよりも60年代生まれで明らかに高まっている。
- 35歳未満層の無子志向男性について分析すると、低所得、交際異性なし、乳幼児ふれあい経験が少ない、15歳時都市圏居住、仕事志向といった要因が有意な予測因子であった。
- 社会経済要因、生育過程要因の両方が有意。子供との親和性が低く（ふれあい経験少）、さらに不利な経済要因が加わる場合に無子志向となる傾向

## 考察と課題

- Miettinen (2010)によれば、無子には2種類の「意図的な無子」の人々が見出せる
  - 自発型の無子：子どもを持つつもりはなく、子どもなしのライフスタイルを選好。その決定要因としては生育歴が関連が深い。
  - 放棄型の無子：かつて出生意欲はあったが、親になることをどこかの時点で放棄し、現在は子どもを持つつもりはない。その決定要因としては社会経済地位やパートナーの欠如が関連が深い。
- 日本のデータ分析からは、経済要因の影響が強く、放棄型無子が多いとみられるが、自発型無子の特徴である生育過程要因も有意であり、両者を識別できる方法・データを探っていくことが課題。どちらのタイプが多いかで政策的対応も異なる。

15

## 文献

Miettinen, A. (2010) "Voluntary or Involuntary Childlessness? Socio-Demographic Factors and Childlessness Intentions Among Childless Finnish Men and Women Aged 25-44", *Finnish Yearbook of Population Research*, pp.5-24.

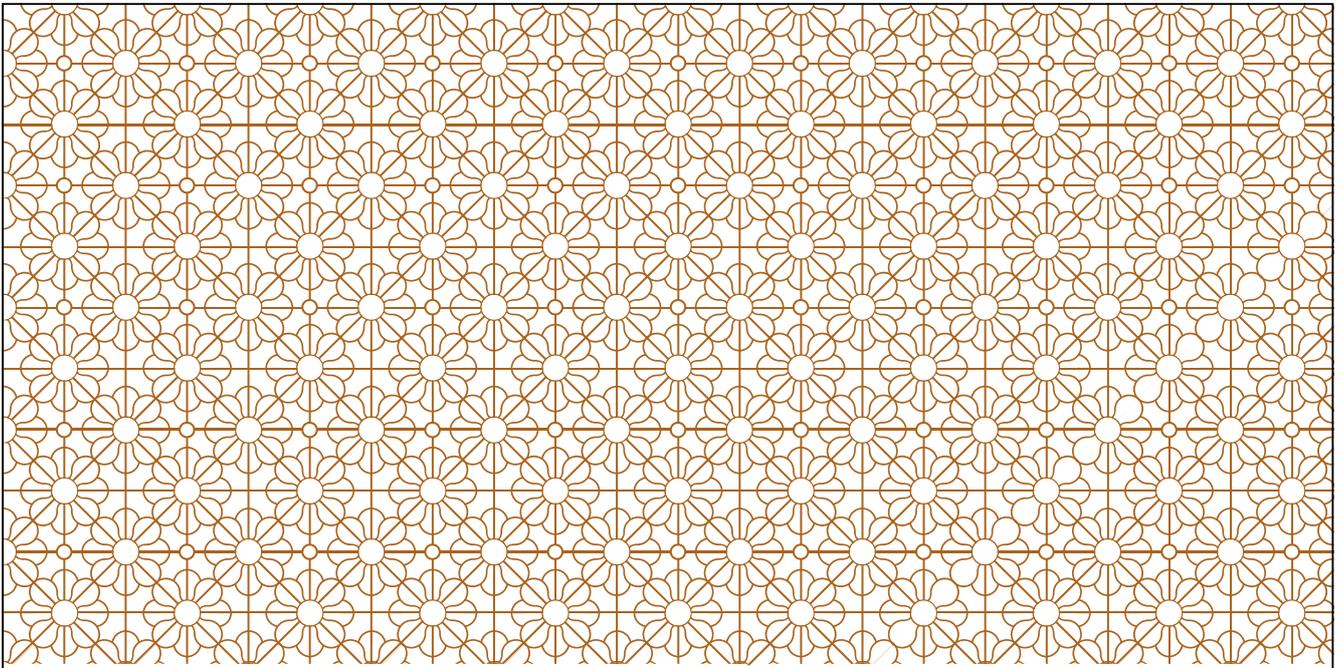
Miettinen, A., A. Rotkirch, I. Szalma, A. Dono and M.-L. Tanturri (2015) *Increasing Childlessness in Europe: Time Trends and Country Differences*, FamiliesAndSocieties Working Paper Series, 33.

Tanturri, M. L., M. Mills, A. Rotkirch, T. Sobotka, J. Takacs, A. Miettinen, C. Faludi, V. Kantsa and D. Nasiri (2015) *State-of-the-art report: Childlessness in Europe*, FamiliesAndSocieties Working Paper Series, 32.

Kreyenfeld, M. and D. Konietzka (2017) *Childlessness in Europe: Contexts, Causes and Consequences*, Demographic Research Monographs, Berlin: SpringerOpen.

Rendall, M. S., L. Clarke, H. E. Peters, N. Ranjit and G. Verropoulou (1999) "Incomplete Reporting of Men's Fertility in the United States and Britain: A Research Note", *Demography*, 36(1), pp.135-144.

菅桂太 (2008) 「わが国における40歳時無子の傾向と要因に関する考察—家族形成行動の観点から—」『人口学研究』第42号、pp.57-70.



ご清聴ありがとうございました



